



1 概要

内閣府は、「理工系女子応援ネットワーク会議」を開催し、39 団体・43 名が出席しました。本会議は、女子生徒等の理工系分野への進路選択を促進する「理工チャレンジ（リコチャレ）」の趣旨に賛同し、様々な取組を行っている理工系女子応援ネットワークの参加団体間での情報交換や、先進的な取組事例の共有を行い、更に訴求力のある企画・イベントにつなげるため開催するものです。

（開催日：平成 30 年 10 月 19 日（金））

2 理工系女性人材の育成に係る取組説明及び基調講演

まず、内閣府から、理工系分野における女性活躍推進に関する説明や夏のリコチャレ 2018 の振り返りを行い、文部科学省から「土曜学習応援団」の説明を行いました。

次に、日本政策投資銀行から、「女性活躍は企業パフォーマンスを向上させる～特許からみたダイバーシティの経済価値への貢献度～」と題して基調講演がありました。講演では、多くの業種で女性が関わる特許の割合が上昇していることや、女性が活躍すると、特許の経済価値が高まることについて発表がありました。



3 理工系女性人材の育成に係る取組事例発表

続いて、女子中高生夏の学校実行委員会、日刊建設通信新聞社、北九州市によるリコチャレイベント取組事例発表がありました。女子中高生夏の学校実行委員会からは、公式 HP を開設し、参加者や学生ティーチングアシスタント（TA）の募集、実行委員会の会員募集等に活用したことについて発表がありました。日刊建設通信新聞社からは、産学官が一堂に会するイベントを開催するにあたり、子どもたちに建設産業界の技術に興味を持ってもらえるよう、「暮らし編」と「巨大災害編」という二つのテーマで展示エリアを設定したことや、マンガ形式のパンフレットを作成したことについて発表がありました。北九州市からは、広報にあたり、教育委員会を通じて市立中学校にチラシを配布したことや、市長の定例会見にてプログラム実施の発表、新聞広告、市 SNS を活用したことについて発表がありました。



3 グループディスカッション等

本会議に参加した理工系女子応援ネットワーク加入団体は、「夏のリコチャレ 2018」でのイベント実施をはじめとして、主体的な取組を実践しています。ネットワーク会議の後半ではグループディスカッションを行い、イベント実施の工夫点・課題点等、今後のイベント実施に向けて活発な意見交換が行われました。

会議には、片山内閣府特命担当大臣（男女共同参画）も出席し、「我が国における理工系の研究者や学生に占める女性の割合が低いのは、理工系の研究や仕事へのイメージが湧かないことが影響している。理工系の研究や仕事の面白さに触れることができるよう、女子生徒の理工系分野への進路選択を促進する『理工チャレンジ（リコチャレ）』に、より一層力を入れていきたい」と挨拶し、参加者と記念撮影を行いました。

